

EBUS-TBNA 検体処理におけるシャーレ法の有用性についての検討

1. 研究の対象

2017 年 12 月～2018 年 4 月までに大阪国際がんセンター呼吸器内科で超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)を受けられた方

2. 研究目的・方法

2017 年 12 月～2018 年 4 月までに大阪国際がんセンター呼吸器内科で EBUS-TBNA を行った患者さんの組織を用いて、EBUS-TBNA の検体処理法における、当初採用していた濾紙法と、当院で行っているあぶらとり紙をもちいたシャーレ法において、病理組織標本の 1 切片における表面積を比較することで検体ロスが減らせているか検討します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、年齢、病理組織診断名、ドライバー癌遺伝子の有無、PD-L1 発現率など

試料：EBUS-TBNA で採取した組織

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：

大阪国際がんセンター 呼吸器内科 西野和美

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前 3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上